【提案】徳川園 2021　★ 水辺環境の多様性を高め、トンボ相を一層豊かに

徳川園には、トンボが生息するための要素（水辺・水生植物・樹林）が全てそろっています。
現状でも、**都市における安定したトンボ発生地**の機能を十分に果たしていますが、
水辺環境の多様性をさらに高める工夫をすれば、**トンボ相を一層豊かにする**ことができます。
なかでも大きな可能性を秘めているのが、**渓流の中溜り**（中流部の池）です。

渓 流 の 中 溜 り

目　標　**トンボ相の多様化**（いろんなトンボが観察できる池）　**モデル**　森の中の自然池沼

工夫１　水面に、**浮葉植物**を生育させる

工夫２　水際に、**抽水植物**を生育させる

現　状

トンボ種数　９種（徳川園内でも、樹林好きタイプのトンボの拠点）。
水面に連続して樹林があり、トンボが摂食したり未熟期を過ごす環境に恵まれている。
しかし、水面や水際に水生植物帯が存在しないため、交尾・産卵環境が不足している。
このため、イトトンボ類が見られないなど、観察できるトンボの種類や数が限られる。
→ 水生植物帯を設ければトンボ相が多様化し、
　いろんなトンボを観察できる空間が創出される。

素質がイイのに、生かし切れていない…

白鳥庭園の下ノ池と似た環境。
樹林のスケールなど下ノ池より恵まれてるのに
種数も個体数も及ばない。　惜しい！

工夫１　水面に、浮葉植物を生育させる

池の底に鉢やプランターを配置し、
アサザや**スイレン**などの浮葉植物を植える。
池の水面に浮葉植物が生育すると**イトトンボの産卵場**となり、
生息するトンボの数や種類が増え、多様性が高まる。

クロイトトンボ産卵（＠徳川園）

セスジイトトンボ（＠徳川園）

【参考事例】徳川園･西湖堤東 ： 鉢を沈めて、浮葉植物を生育させている。

工夫２　水際に、**抽水植物**を生育させる

池の水際に植生帯を創出する。
方法は、
プランターを使って水生植物を植栽したり、
枠を設けて内側に湿地帯を造り、水生植物を植栽するなど。
植栽する水生植物は、
ヨシ、ガマ、フトイなどの抽水植物がよい。
水際に植生帯が形成されると、
トンボ類の**休息場**や**羽化場所**となる。
またトンボ**幼虫の生息環境**にもなる。

ヨツボシトンボ休息（@鶴舞公園）

シオカラトンボ羽化（@白鳥庭園）

工事中の渓流・中溜り（2003 年）
平底で深さ 40cm ほどなので、鉢やプランターの配置は十分に可能と思われます。

【参考事例】**白鳥庭園・下ノ池**：
プランターにハスやヨシなどの抽水植物を植え、水際の植生を創出している。

【参考事例】**名城公園・御深井池**：池の水際に杭を打ち、湿地を創出している。

【参考事例】**鶴舞公園・秋の池**：
水際に枠を設置し、土を入れてヨシを植栽し、水際の植生を創出している。